

	広島大学 人文科学分野
学部等の教育研究 組織の名称	文学部（第1年次：140名、第3年次：10名） 文学研究科（M：64名、D：32名）
沿 革	明治35（1902）年 広島高等師範学校設置 大正12（1923）年 広島高等学校設置 昭和4（1929）年 広島文理科大学設置 昭和24（1949）年 広島大学文学部設置 昭和28（1953）年 文学研究科設置
設置目的等	昭和24（1949）年に、人文科学の分野における幅広い基礎学力と専門知識を有し、鋭い感性と客観的視点に基づいて現代社会を的確に見据え、その発展に貢献できる人間性豊かな個性的人材を養成することを目的として、文学部が設置された。 昭和28（1953）年に、社会的要請に十分に応え得る高度な研究能力と、豊かな学識を備えた研究者及び高度専門職業人を養成することを目的として、文学研究科が設置された。
強みや特色、 社会的な役割	<b>【総論】</b> 広島大学における人文科学分野においては、真理の探究を図るとともに、我が国における人文科学分野の普遍的役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。 引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。 <b>【教育】</b> (学部) ○ 人文科学の学問分野の教育研究を通じて、原典の読み込みを軸に、新たな観点から問題を発見し、自らの解釈を見いだし論証していく能力や、汎用的な批判力・論理的思考力を有し、広く社会で活躍できる人材を養成する。 ○ このため、学問分野に対応した5つの教育プログラム（哲学・思想文化学、歴史学、地理・考古・文化財学、日本・中国文学語学、欧米文学語学・言語学の各コース）を編成し、原典・テキストに基づく演習の推進に取り組んでいる。 ○ 今後、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育

課程を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等を整備すること、また、これらの取組の実施だけではなく、可視化した資質や能力に応じた取組の成果や効果等を適切に把握していくことにより、学士課程教育の質的転換に取り組む。

#### (大学院)

- 研究の社会的意義付けを意識化させ、自立的・創造的研究を行うための基礎的能力や人文科学分野の高度な研究能力と学識を有する高度専門職業人・研究者を養成する。
- このため、異分野の学生との議論形式の授業や分野横断型の対話授業とともに、原典・テキストの発展的な読解に基づく演習の推進に取り組んでいる。
- これらの取組を通じて、人文科学分野の研究職に、平成 24 年度時点で 600 名を超える人材を輩出している。
- 今後、東南アジアを中心とした留学生の受入れを推進するとともに、社会人も含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。

#### 【研究】

- 歴史学・考古学・文学・地理学等の研究実績をいかし、これらの総合的なアプローチによる巖島研究や帝釈峡遺跡群発掘調査研究、現代インド研究などに取り組んでいる。
- 長年にわたる帝釈峡遺跡群発掘調査の結果、国内外の研究者が集う長期滞在型の実習・調査室を地元自治体の協力を得て設置するなどの進展を見せている。
- 今後、総合的な研究を組織的に推進するとともに、我が国社会の課題解決・文化の発展に貢献することを目指す。また、サンパウロ大学（ブラジル）やホーチミン国家大学（ベトナム）と連携し、原典に基づいた日本文化研究を強化し、当該研究成果を国際的に広く発信する。

#### 【その他】

- 全学的な機能強化を図る観点から、18 歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織の在り方、規模等の見直しに取り組む。また、大学院の定員未充足の改善のため、魅力あるカリキュラムの再構築、日本学の研究者養成を行う留学生コースの開設、定員規模の見直し等に取り組む。